

海外展開のススメ

支援メニュー編

中海・宍道湖・大山圏域市長会 今、台湾が熱い！

国際センターとビジネス

中海・宍道湖・大山圏域市長会（会長 上定昭^{かみさだあき}）仁・松江市長は、圏域内企業の海外展開に力を入れていきます。その取り組みについて、同市長会事務局次長の飯塚晃^{いづかあきら}一さんに伺いました。

「台湾推し」ですね。

「2006（平成18）年に、松江大根島牡丹を『春節前建国花市』に出展したことがきっかけで、松江市と台北市の交流が始まりました。

た。そのつながりで、2022（令和4）年に台北市と当圏域市長会が交流促進の覚書を締結し、『春節前建国花市』や『台北温泉祭』、台湾最大の食品展示会『フード台北』に参加しています」

「最近是一段と、連携の促進が図られています。」

「はい。昨年、台湾から国際交流員の葉可全^{かきん}さんを当圏域市長会に受け入れ、通訳やマッチング支援を強化しました。また、ことし5月に米子鬼太郎空港（佐斐神町）に直行便が就航したことは、経済連携に向けての弾みになると考えています」

「補助金制度について教えてください。」

「当圏域内5市に事業所のある企業が海外展示会の出展や商談に取り組み際に必要な経費の2分の1、10万円まで助成します。対象国が韓国、中国、インドや台湾の場合、補助率は3分の2、限度額15万円と優遇しています。輸出案件だけではなく、輸入や観光といった案件でも利用ができるほか、経費が重ならなければ、ほかの補助金との併用もできる使い勝手の良い制度になっています」

「商談会なども主催されていますね。」

「ものづくり企業が参加する『ビジネスマッチング商談・展示会2025 in 出雲』10月23日開催」に、台湾バイヤーと台湾向けの輸出を扱う国内商社が参加します。海外との新たなビジネスチャンスです。ぜひ、ご参加ください」

インタビューを終えて

経済、文化、観光を含むめた台湾との長年の交流

が米子―台北直行便の就航を契機に、大きく花開くことに同圏域市長会の皆さんが期待を寄せていることが良くわかりました。



飯塚晃一（左）と葉可全・国際交流員